

第287回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成24年4月23日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
笠井 明	委員	吉原 浩	委員
大久保 千春	委員	田村 明子	委員
尾畑 留美子	委員		

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
専務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長兼報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	羽田 朗
事務局	海津 智洋
	紫竹 聡子

4 議 題

1) 番組合評

「その手に春を 震災1年・新潟からつなぐ未来」

[放送 : 2012年3月10日(土) 16:00~16:55]

(説明 : 番組プロデューサー 羽田 朗)

2) 会社報告

- ①平成23年度視聴率 (報告 : 編成部長)
- ②放送番組の種別報告及び放送番組の種別ごとの放送時間報告
(2011年10月~2012年3月) (報告 : 編成部長)
- ③4月期の番組編成 (報告 : 編成部長)
- ④3月の視聴者の意見。 (報告 : 番組審議会事務局)
- ⑤講じた措置、公表など定例の報告等。(報告 : 番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要 (委員の意見)

会社側から、この番組は東日本大震災から一年が経ち日々続けてきた取材活動を纏めたものであり震災発生後一年の一日前3月10日に放送した番組であること。そして新潟の放送局としてこれからも東日本大震災の取材をしっかりとやっていくことと、新潟県へ避難されている人たちとしっかりと向き合って取材していくことの決意を込めて制作したものであること。また「希望」が復興の足掛かりであり生活再建への土台であるという思いから「希望」をもって頑張っている人たちを取り上げたもので、

県民に復興への思いを寄せていただき、被災された方々に「希望」をもち続けていただきたいというメッセージを込めて制作した番組であることなどを報告した。

●オープニングの3.11の映像は見ていて辛かった。正直目を逸らしたい思いもあったが、ずっと報道していかなければならないという思いもあった。番組を見ていて避難されている人たちの頑張りや生き活きとした様子を見て逆に元気づけられた気がした。

●避難されている人たちを見ていて故郷へ戻りたいという思いを強く感じた。土地への帰属意識というか一体感というか自分を含めて日本人特有のものなのか、そのことが番組を見ながらずっと最後まで気になっていた。

●「わけがわからないうちに新潟へやってきた」という避難者のコメントにあるように知らない土地に来て生活を始めるというストレスの貯まる状況で一年やってきて、いつまでも「避難してきた人たち」ではなく「名前を持つ一個人」になっていかなければならず、受け入れる側も何時そういう意識になれるのか。それがひとつのポイントなのだろうと思った。

そんな状況の避難されてきている人たちを新潟で暖かく受け入れていけるといいなと思い、またきっと出来るのではないかと番組を見ていて思った。

●いろいろな人たちを紹介していたが、避難されている人たちには周りの人達とのやりとりや家族同士の葛藤、ストレスがあるはずだと思う。そのあたりをもっと深く掘り下げて問題点として取り上げてくれたら見ている側としてどうすればいいのか、行政との関連はどうできるのかなど次への展開に繋がったかも

しれないと思った。

●「悩み・課題は何か」「経験がどう活かされているか」「県内の災害対策はどうか」という3つのテーマを考える番組だと思った。NPOや避難者のための民間サロン、地域復興支援員活動、新潟での防災活動など、いずれも共通しているのが「若い人たちや地元のリーダーなど誰かが引っ張っていかないと動かない、回らない」ということだった。これらのどれがどこまで完全に民間で自発的に活動しているのか、どこまで行政の働きかけや公的支援によって活動しているのか、その辺の仕掛けが現状どうなっているのかが知りたいと思った。各個人や団体の日々の活動内容や活動を立ち上げるときのエピソードなどを取材して紹介してくれる番組内容でも意味があったように思った。

●「震災」とか「絆」とか、私たちが忘れてはいけないと思っている言葉であっても、どこか「またか」という思いがそろそろ心の中にちらほらあるような一年目のように思う。体制や状況に苦情や文句を言っている避難者の映像は大切だが、現状の中で自分でできるものは何なのかを探して、仲間を自ら見つけて頑張っている人の姿は見ていて応援したくなるものだと思う。番組としてはそんな頑張っている人を取り上げて、見ている人が応援したくなるような構成にしたらもっと良かったと思う。

●いざという時、他から何か支援してもらえるのをただ待っているのではなくて、自分のところで何ができるかを考えるようになった、そんな震災後の一年だったように思う。

●「避難家族の一年」「帰れない故郷（自主避難）」「どうなる新潟防災」という複数のテーマを最初に体系的に示しておけば分かりやすかったと思った。

●震災から一年目としてタイムリーな企画だが、やや平板な感じがした。最悪の状態から復興への途上であり、予定調和的で安心して見られたがドキュメンタリーとしては中途半端な印象を持った。また新潟からの上から目線も少し気になった。

●大震災後一年目のドキュメンタリーとして、もっと悲惨で辛い例もあったと思う。例えば震災で身寄りを無くした子供たちの実態や、それらを社会がどうやって支えていくべきかなどの問題についてはあまり報道されていない。

●番組で取り上げたのは家族が亡くなったり、バラバラになったりした例ではなく比較的恵まれた人たちの話かなと思った。被災について現実の深刻な感じが伝わりにくいと思った。

●原子力発電所事故について被災状況や現場周辺についての情報がまだまだ少ないと思う。もっともっと報道的にも突っ込んで追究し取材して欲しい。

●地域復興支援員の自治体側対応について、彼らの身分や雇用条件などは未だ改善されていない点が多いと思う。そうした個人や民間団体の活動と国や自治体との関係についての現状では多くの問題が存在する。番組ではこれら問題点を羅列して見せているが、問題についての対応では物足りなさを感じざるを得なかった。

●新潟地震当時を振り返り、地震や津波に対する現状対策を考えてもまだまだ防災対策が出来ているか疑問だ。

●「新潟の防災」のテーマのところでは興味を持って見たが、具体的な内容はよくわからなかった。防災という大きなテーマなので今回の番組では馴染まないし物足りなかったなので、別途単独で番組化して詳しく分かりやすく放送して欲しいと思った。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

3月…… 121件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成24年3月26日)から昨日(平成24年4月22日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第286回審議会では「新潟一番プレゼンツ がんばる新潟人 熱血!熱中!高校生 SP」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧します。

8 今回の第287回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。

2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。

3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載します。

9 参考事項(委員への配布資料)

- ・3月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・3月の単発番組制作一覧
- ・民間放送新聞(3/23, 4/3, 13号)

以上